

投稿者・・・匿名

原文のまま記載させて頂きました。

■追伸

戦後、娘の仕事が慰安婦だった事、その内容が公にされた親は、恥だと、死んでも同じ山（墓地）に葬らない！と娘を責めている様に、親は国の仕事を手助けに連れて行かれたものとばかり思い込んでいた様です。余りにも生き残っている本人が悲惨ではありません。

5月14日、憲法改正への道筋をつける国民投票法が成立した。阿部首相は昨年9月の就任以来、「美しい日本」をつくるためなどと標榜して教育基本法を改正し、戦後の占領時代に制定されたことを理由の一つに憲法改正を目論む。戦後生まれの初めての首相は「戦後レジームからの脱却」を掲げ、相次ぐ「改正」で改革派をアピールする一方、社会に広がる格差問題など、国民の日常の問題には何ら具体的な政策を示さない。

靖国参拝問題では「国のために戦って亡くなられた方々に敬意を表し、ご冥福をお祈りし、尊崇の念を表する気持ちを持ち続けたい」とする一方で、「戦後」に幕を下ろすかのような政治姿勢には、戦争の犠牲になり、傷を引きずるもう高齢の方たちへの敬意は感じられない。

従軍慰安婦の問題も然り、である。拉致問題を引き合いに出して「拉致は現在進行形の人権侵害だが、従軍慰安婦の問題は続いているわけではない。」という言い方がよく物語っている。

「戦後レジームからの脱却」を目指す首相にとっては、この問題もまた「終わったこと」なのに違いない。（この項、門田）